

科目名 (科目番号)	臨地実習 (時間割参照)	教員名 鴻巣 麻子, 他	学科等	臨床検査	必修	履修年次	3
			曜日・時限等	時間割表参照	単位数	12	
			授業形態	実験・実習	オフィスアワー	各担当教員シラバス参照	
授業概要	3年次前期までに学内で修得した知識・技術を基盤として、病院で実習を行う。臨床の場で疾患と直結した知識や技能を高めることが目的であるが、併せて情意面を重視して実習する。すなわち、医療人としての基本的な言葉遣いや態度、患者や病院職員とのコミュニケーション、検査に取り組む姿勢（責任・倫理）などを習得する。また、学内実習では教授できない患者からの検体採取、検体の処理、検査法の実施、検体の保存方法、結果報告まで、一連の業務の流れを体験し習得する。						
目的・目標	目的: 大学で学んだ基礎的な知識、技術、態度を実践的なものとする。 目標: 臨床検査が実際の病院の現場ではどのように行われているか、患者接遇も含めて体得する。						
授業計画	茨城県内を中心に東京都および近県の医療施設で実習する。						
	実習準備学習として実習前に技能修得到達度評価（生理学的検査、形態に関する検査、検鏡法・顕微鏡操作を含む尿沈渣検査、などの実技試験）を実施し（1単位相当）、必要な指導を受けた上で合格した者に医療施設での実習に参加することを許可する。						
	病院によって内容は若干異なるが、原則として以下の各科目の講義、演習および学内実習の内容に含まれる臨床検査関連事項について、病院において約11週間（55日間）実習する。 生理学的検査に関する実習は3単位相当以上行う。						
	病態学、検査診断学、検査診断学演習、臨床血液学、血液検査学、血液検査学実習、病理検査学、病理検査学実習、医動物学演習、臨床化学、臨床化学実習、免疫検査学、免疫検査学実習、輸血・移植検査学、輸血・移植検査学実習、輸血・移植検査学演習、微生物検査学、微生物検査学実習、微生物検査学演習、生理機能検査学、生理機能検査学実習、画像検査学、画像検査学実習、臨床検査総論、検査管理運営総論、検査管理運営総論演習、検査情報処理科学、医療安全管理学演習						
	厚生省指定規則および指導ガイドラインでは以下の項目を含めることとされている。 <u>臨地実習において学生に必ず実施させる行為</u> 標準12誘導心電図検査、肺機能検査（スパイロメトリー）、血球計数検査、血液塗抹標本作成と検鏡、尿定性検査、血液型検査、培養・Gram染色検査 <u>臨地実習において必ず見学させる行為</u> ホルター心電図検査のための検査器具装着、肺機能検査（スパイロメトリーを除く）、脳波検査、負荷心電図検査、超音波検査（心臓、腹部）、足関節上腕血圧比（ABI）検査、精度管理（免疫学的検査、血液学的検査、病理学的検査、生化学的検査、尿・糞便等一般検査、輸血・移植検査）、メンテナンス作業（免疫学的検査、血液学的検査、生化学的検査、尿・糞便等一般検査）、臓器切り出しと臓器写真撮影、迅速標本作成から報告、検査前の患者への説明（検査手順を含む）、チーム医療（NST、ICT、糖尿病療養指導）、検体採取、消化管内視鏡検査 <u>臨地実習において実施させることが望ましい行為</u> 血栓・止血検査、HE染色や特殊染色検査、病理標本観察、細胞診標本作成と検鏡、尿沈渣検査、血液ガス分析検査、交差適合試験、不規則抗体検査、同定・薬剤感受性試験、採血室業務（採血行為を除く）、運動誘発電位検査、体性感覚誘発電位検査 実習成果確認として、実習後に学内で報告会と試問を行う。						
成績評価の方法・基準	各臨地実習病院による評価を参考に、実習前後の学修状況も勘案して総合的に評価する。 新型コロナウイルス感染症等の影響で評価方法が変更される場合は、そのつど連絡します。						
教科書	臨床検査技師 臨地実習ノート		三村邦彦 著		医歯薬出版		
参考図書	臨床検査学実習書シリーズ(全10巻)		日本臨床検査学教育協議会 監修		医歯薬出版		
教員からのメッセージ	臨地実習に参加するためには、あらかじめ所定のワクチン接種を完了している必要があります。実際の臨床現場で学ぶ実習をより充実したものにすると共に、健康についての自己管理を十分にすると共に、実習日誌などの提出物の提出や復習をしっかりと行って下さい。新型コロナウイルス感染症等の影響でスケジュールが変更される場合は、そのつど連絡します。						